1　医療事故防止について正しいのはどれか。

a　患者との人間関係が良好なら事故は起こらない。

b　インシデント報告に報告者氏名記載を義務付けない。

c　複数の医療従事者が医療行為を確認すれば事故は防げる。

d　環境が異なる他の病院での前例は医療事故予防に役立たない。

e　治療行為の前には「ｘｘさんですね？」と患者の氏名を確認する。

2　組合せで**誤っている**のはどれか。

a　医療の質の確保――――――――――――――診療マニュアル

b　ＤＰＣ――――――――――――――――――――包括医療制度

c　ハインリッヒの法則――――――――――――PDCAサイクル〈デミングサイクル〉

d　院内MRSA感染対策 ――――――――――――抗菌薬の適正使用

e　転倒リスク――――――――――――――――抗不安薬

3　閉経期に減少するホルモンはどれか。

a　エストロゲン

b　エピネフリン

c　グルカゴン

d　テストステロン

e　プロラクチン

4　仮性球麻痺患者の診察所見に**合致しない**のはどれか。

a　嗄　声

b　横音障害

c　咽頭反射陽性

d　カーテン微候陽性

e　口蓋垂の挙上不良

5　浮腫を**呈さない**のはどれか。

a　深部静脈血栓症

b　急性糸球体腎炎

c　ネフローゼ症候群

d　甲状腺機能低下症

e　ADH不適合分泌症候群（SIADH）

6　組み合わせで**誤っている**のはどれか。

a　喀　血――――――――――――――――――――肺結核

b　傾　眠――――――――――――――――――――高二酸化炭素血症

c　呼吸困難――――――――――――――――――低酸素血症

d　徐　脈――――――――――――――――――――甲状腺中毒症

e　浮　腫――――――――――――――――――――ネフローゼ症候群

7　出血傾向を呈するのはどれか。

a　真性多血症

b　鉄欠乏性貧血

c　遺伝性球状赤血球症

d　抗リン脂質抗体症候群

e　播種性血管内凝固症候群

8　神経の障害で嚥下困難をきたすのはどれか。

a　聴神経

b　副神経

c　顔面神経

d　迷走神経

e　三叉神経

9　無痛性の結膜充血および眼瞼腫脹をきたすのはどれか。

a　麦粒腫

b　急性霰粒腫

c　急性結膜炎

d　流行性角結膜炎

e　アレルギー性結膜炎

10　心臓ペースメーカを使用中の患者に、禁忌となるのはどれか。

a　超音波検査

b　磁気共鳴画像（MRI）

c　造影CT頭部検査

d　造影CT胸部検査

e　ポジトロンエミッション断層撮影（PET）

11 検査前確率が10%の患者に、陽性尤度比が４の検査を行い陽性だった。
検査後確率はいくらか。
a 13%
b 31%
c 45%
d 57%
e 74%

12 アルコールとの関連性が**乏しい**疾患はどれか。
a 喘　息
b 脂肪肝
c ニューロパチー
d Wernicke脳症
e 大腿骨頭壊死

13 AED（自動体外式除細動器）を用いた除細動に関して正しいのはどれか。
a 水分をふき取る。
b 妊婦には使用できない。
c 小児には使用できない。
d 動かないように押さえながら行う。
e 除細動後30秒は心臓マッサージを一時中止する。

14 鉄欠乏性貧血でみられるのはどれか。
a 肝脾腫
b 下腿浮腫
c チアノーゼ
d 収縮期雑音
e Hippocratic nail

15 皮膚掻痒を起す疾患で、掻痒出現とともに呼吸苦が起こる可能性のあるのはどれか。
a 尿毒症
b １型糖尿病
c 急性蕁麻疹
d 光線過敏性皮膚炎
e アルコール性肝炎

16 疾患と治療の組み合わせで正しいのはどれか。
a 自己免疫性肝炎――――――――――――――蛋白同化ホルモン
b 胆石症――――――――――――――――――ビタミンD製剤
c 原発性胆汁性肝硬変――――――――――――ウルソデオキシコール酸
d 胆石症――――――――――――――――――グリチルリチン製剤
e C型慢性肝炎 ――――――――――――――――核酸アナログ製剤

17 生活週間と健康について**誤っている**のはどれか。
a 健康日本21は、「二次予防」に重点を置く対策である。
b 「朝食をとらない」は肥満と関係のある食行動である。
c タバコの煙は受動喫煙によって非喫煙者の健康に悪影響を及ぼす。
d 過度の飲酒は脳梗塞と脳出血の危険因子である
e わが国の自殺者数は年間３万人を上回っている。

18 診療に臨む姿勢として正しいのはどれか。
a 不定愁訴は途中で遮る。
b 面倒な患者は後回しにする。
c 患者の不安を取り除くように話す。
d 患者の身なりで言葉使いを変える。
e 当直明けのため診察は手短かにする。

19 30歳の女性。血友病保因者で、５歳の血友病男児がいる。第二子を望んでおり、次は受精卵遺伝子検査をして女児を出産したいと、小児科医（子どもの主治医）に相談してきた。

最初の対応として、適切なのはどれか。
a 遺伝カウンセリングを紹介する。
b 不妊治療（体外受精）の外来を紹介する。
c 羊水検査で患児の診断ができることを話す。
d 血友病の受精卵診断は認められていないと伝える。
e 受精卵診断によって中絶を回避できることについて説明する。

20 医学と司法が関わる場面で、医師のみが関わっているのはどれか。
a 犯罪捜査時のDNA鑑定
b 刑事被告人の精神鑑定
c 医療事故訴訟における証言
d 受刑者の更正プログラム作成
e 死刑執行時の死亡確認

21 造影CT検査のために末梢静脈ルート確保を行った。その際に用いた留置針は、どのマークの張ってある容器に捨てるべきか。

a

b

c

d

e

22 65歳の男性。右利き。高血圧で10年前より降圧薬を内服している。朝食後に気分不良を訴え、軽度の意識障害をきたして救急車で病院へ搬送された。到着時に、血圧140/76mmHg、脈拍72/分、神経学的に意識レベルJCS I-3、呼名に反応して閉眼指示に従うが、呂律が回らず意味不明の言語を発していた。右顔面と右上肢に強い不全麻痺を認めた。視野障害は認めない。

病変部位はどこが疑われるか。

a 左前頭葉
b 左頭頂葉
c 左側頭葉
d 左後頭葉
e 橋　脳

23 48歳の男性。医療面接の場面を示す。

医師①「今日は、どのようなことでいらっしゃいましたか。」
患者　「1週間前から、お腹が痛みます。」
医師②「もう少し詳しく説明して下さい。」
患者　「夜、床についた後に胃のあたりが痛みます。」
医師③「どんな痛みですか。」
患者　「重苦しい痛みが続いて、時折キューと痛みが強くなります。」
医師④「それでは眠れなくてつらいですね。」
　　「以前に、このようなことがありましたか。」
患者　「ありません。」
医師⑤「それでは、痛む理由をどうお考えになっていますか。」
患者　「食べ過ぎ、飲み過ぎと思っていますが。」

正しいのはどれか。

a ①は、会話を促進している。
b ②は、共感を表している。
c ③は、閉鎖型の質問である。
d ④は、同意を促している。
e ⑤は、患者の解釈モデルを聴取している。

24 60歳の女性。両手指の関節腫脹を主訴に来院した。

現病歴：1年前から特に誘因なく両手指DIP関節、PIP関節の腫脹と疼痛が出現した。
既往歴：特記すべきことなし。
現　症：両手指DIP関節、PIP関節の腫脹、変形、圧痛を認めるが、MP関節には特に所見を認めない。両手の外観を示す。

DIP関節の診断はどれか。

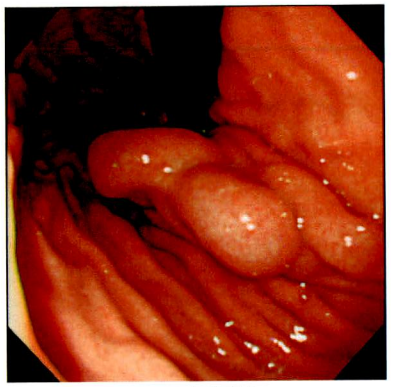
a 偽痛風
b Kienbock病
c 関節リウマチ
d Heberden結節
e 離断性骨軟骨炎

両手の外観

25 67歳の女性。C型肝炎を10年前に指摘されていたが通院しなかった。今回、上腹部不快感のため来院した。腹部理学所見では圧痛なく、ぐる音正常で脾臓が２横指触知された。上部内視鏡検査を実施し、胃静脈瘤が認められた。

次に行うべき検査はどれか。

a　上部消化管造影検査
b　下部内視鏡検査
c　胃静脈瘤生検
d　腹部造影CT検査
e　腹部単純エックス線検査



上部内視鏡検査

26 50歳の男性。胸腹部のCTを受けた。水より低いCT値を示すのはどれか。

a　皮下脂肪織
b　肝　臓
c　骨皮質
d　左心室腔内
e　腎実質

27 ３歳の女児。遊んでいるうちにビーズを鼻腔に入れたのを家人が目撃し来院した。患児は暴れ摘出は容易ではない。

正しいのはどれか。

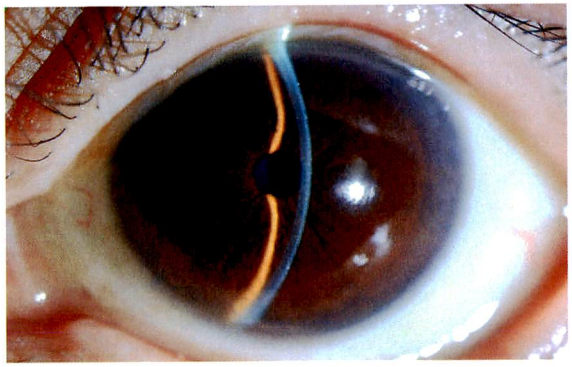
a　全身麻酔下に摘出した。
b　Heimlich法にて摘出した。
c　後鼻孔へ落とした。
d　指拭法で摘出した。
e　自然排出を待つ。

28 70歳の女性。生来健康、眼科受診歴はなかった。１日前に頭痛、嘔吐、左眼の眼痛を主訴に前医を受診した。

前医では、視力）右眼0.3（1.0×+2.50D）　左眼0.01（0.01×+5.50D）、眼圧）右眼12mmHg　左眼55mmHgであった。前医にて塩酸ピロカルピン点眼を頻回点眼され、同日紹介受診となった。受診時、左眼の視力は（0.7）と上昇、眼圧は23mmHgと下降していた。受診時の左眼前眼部写真を示す。

この患者に対する今後の対処法として、最も有効なのはどれか。

a　レーザー虹彩切開術
b　レーザー線維柱帯形成術
c　炭酸脱水酵素阻害点眼薬の処方
d　プロスタグランジン点眼薬の処方
e　交感神経βブロッカー点眼薬の処方



受診時の左眼前眼部写真

29 82歳の男性。８か月前に脳梗塞を発症し、以後左完全片麻痺を残している。

この患者の生活指導として**誤っている**のはどれか。

a　嚥下困難があるときにはビデオを使用した嚥下機能評価を行う。
b　麻痺側関節に疼痛を認めるときは絶対安静を保つ。
c　実現可能なゴールを設定することが必要である。
d　排尿障害は在宅医療を施す上で障害となる。
e　片麻痺は、発症後６か月以後も改善する。

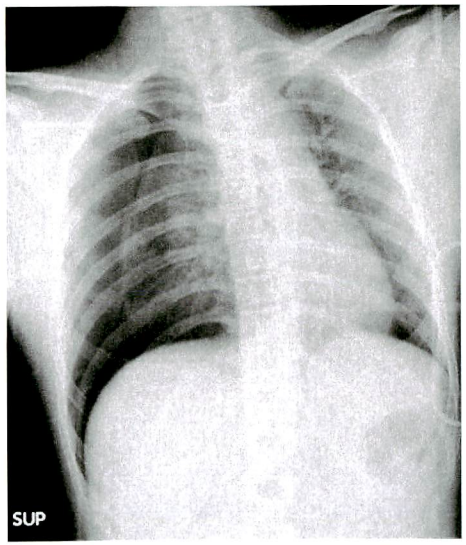
30　68歳の男性。本日午後から右大腿骨の複雑骨折に対して手術を行う予定である。右下肢は以前の外傷で知覚鈍麻がある。術当日の朝、末梢静脈路を確保し点滴を行う際に正しいのはどれか。

a　細い静脈留置針で点滴する。
b　感覚の鈍い右足背部から点滴する。
c　吸入麻酔が始まってから点滴する。
d　最初から静脈切開を行って点滴する。
e　太めの針を留置する。

31　26歳の女性。交通外傷で搬入され、primary surveyで撮影された胸部単純エックス線写真を示す。

行うべき処置で正しいのはどれか。

a　左側第２肋間鎖骨中線から留置カニューラで穿刺する。
b　右側第２肋間鎖骨中線から留置カニューラで穿刺する。
c　超音波検査で確認しながら心嚢穿刺を行う。
d　右開胸を行う。
e　左開胸を行う。



胸部単純エックス線写真

32　24歳の男性。糖尿病治療のため来院した。身長172cm、体重84kg。空腹時血糖184 mg/dℓ、HbA1c 8.6%。医療面接から、患者は一人暮らしで夕食はほとんど外食であること、糖尿病の知識がほとんどないことが判明した。この患者の診療に、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、検査技師、理学療法士がたずさわることになった。

正しいのはどれか。

a　最初に各職種の役割分担を明確にする。
b　各職種がそれぞれ記録を作成し、共有する必要はない。
c　医師が強いリーダーシップを発揮し、各職種をまとめる。
d　検査技師は患者の検査結果を他職種に守秘する義務がある。
e　管理栄養士は指示カロリーが守られていることを到達目標とする。

33　56歳の男性。腹囲95cm。血圧136/80mmHg。会社の健康診断でメタボリックシンドロームと診断され、受診をすすめられた。

正しいのはどれか。

a　インスリン抵抗性の関与が重視されている。
b　日本人にはまれな病態である。
c　治療の基本は薬物療法である。
d　糖尿病の治療を受けていれば、メタボリックシンドロームから除外される。
e　脂質異常および糖代謝異常に対する生活指導を行い、1年後に再検査を行う。

34　60歳の男性。現在まで２回の脳血管障害を発症している。危険因子は肥満、糖尿病、脂質異常症である。最近、危険因子コントロール目的で通院しはじめ食事療法を指導しているが、関心はあるものの現実の行動の変容が認められていない。

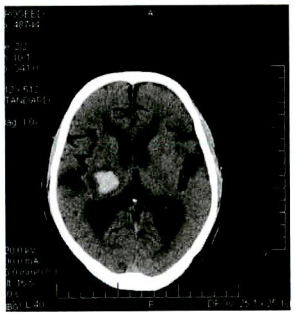
この患者の食事指導に対する最初のアプローチとして適切なのはどれか。

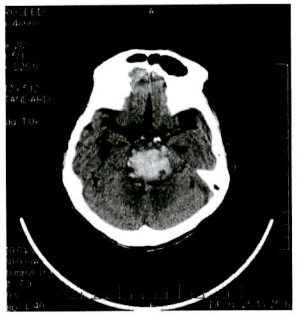
a　頑張るように促す。
b　食事の問題点を指摘する。
c　家族のサポートを強化する。
d　食事療法についての考えを聞く。
e　食事療法についての重要性をくり返し説明する。

次の文を読み、35～36の問いに答えよ。

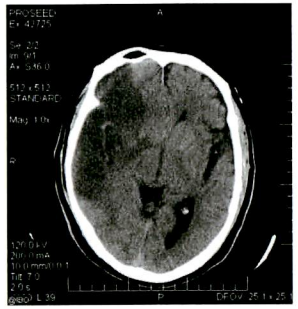
55歳の男性。午前中右眼の奥を中心に激しい頭痛が出現したため、臥床していた。夕方になり再び激しい頭痛が出現し、嘔吐したため搬送された。血圧は166/102mmHg、脈拍98/分。意識は傾眠傾向(JCS 10)。瞳孔は左右同大で3 mm、対光反応は迅速。麻痺は認めなかった。

35　来院後早期に行った頭部CT所見として、この患者に合致するのはどれか。

a


b


c

d


e

36　次に必要な検査はどれか。

a　脳　波

b　脳血管撮影

c　脳血流検査

d　脳脊髄液検査

e　頸動脈超音波検査

次の文を読み、37～38の問いに答えよ。

82歳の女性。腹痛と嘔吐を主訴に来院した。

現病歴：3日前より排便が無く、昨日より下剤を内服していた。1時間前から腹痛と食物残渣の嘔吐が出現した。既往歴：3年前に胃癌で手術を受けている。現症：意識は清明。身長160cm、体重72kg。体温37.2℃。脈拍82/分、整。血圧168/96mmHg。上腹部正中に手術創を認める。腹部は膨満し、腸蠕動音は亢進している。黄土色の嘔吐を繰り返している。腹部エックス線写真でニボーを認める。

37 鑑別診断として考え**にくい**のはどれか。

a 便秘症

b 大腸癌

c 癌性腹膜炎

d 感染性腸炎

e 癒着性腸閉塞

38 治療法として適切なのはどれか。

a 高圧浣腸

b 緊急手術

c 抗癌薬治療

d 緩下剤投与

e イレウス管挿入